

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名 大嶋 満須美	職名 教授	学位 修士 (健康福祉学) 山口県立大学
-----------	-------	----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
成人慢性期看護 看護管理	慢性期、家族、ゆらぎ、受容過程 組織、人材育成

研究課題
慢性疾患を抱えた患者・家族の揺らぎと受容過程 看護教育

担当授業科目
成人看護学概論 (前期) 成人看護学演習 (前期) 緩和・がん看護 (前期) 保健福祉学入門 (前期) 成人慢性期看護方法論 (後期) 成人慢性期看護学実習 (通年) 看護総合実習 (通年) 看護総合演習 (通年) 看護学特論 (後期) 看護研究演習 (後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 成人看護学概論 】</p> <p>成人看護の対象は地域社会で暮らす生活者であり健康の側面から理解できるように、統計資料等を用いて教授した。本年度成人年齢が 18 歳となったことにより、成人期の位置づけを明確化し、青年期にある学生が自身の成長発達と関連づけながら理解が出来るよう意識化を図った。授業の構成は調べ学習、グループワークや発表を交え、健康課題の明確化と看護について考察を加えた。また、学生の意見には毎回フィードバックに努めた。</p>
<p>授業科目名【 緩和・がん看護学 】</p> <p>がん治療や緩和ケアに関する最近の動向を把握し、看護の多様性と専門性を踏まえ解説した。自己決定を主体とした個別化医療も進む中、「がん」の罹患による健康障害と、慢性疾患からターミナルステージへと移行する患者・家族が歩む治療過程を事例や教材を紹介し具体的に解説した。看護の役割として苦痛の緩和と意思決定支援が求められているが、この科目は看護者の健康観や人間観、そして「死生観」を育む重要な機会である。人々の尊厳と QOL の視点を持ち、看護者が関わることの意義について教授した。</p>
<p>授業科目名【 成人慢性期看護方法論 】</p> <p>系統別看護の展開として、既習の知識、また看護学概論や基礎看護学実習の体験をもとに、形態機能や疾患と結び付けながら健康障害とアセスメントの視点、主な症状や疾患と看護などについて解説し、看護実践に応用できるよう具体的に教授した。科目範囲が広いことから単元毎に小テストによる確認を行い、次回に繋げた。</p>

<p>授業科目名【 成人看護学演習 】</p> <p>成人看護学実習に臨む前段階として位置づけ、模擬患者による課題演習を基本とし、「看護過程」と「看護技術」を柱として展開した。グループワークと個人ワークを組み合わせ、学生の学修状況を確認しながら解説を行い、個別にも配慮し領域担当者全員で関わった。演習終了後、教員間で課題や到達度について協議し、進捗状況や方向性について情報共有を行った。</p>
<p>授業科目名【 成人慢性期看護学実習 】</p> <p>コロナ禍の影響により、臨地と学内実習を組み合わせた実習形態となった。受け持ち事例を通して慢性疾患の病態理解と看護の方向性について学生の思考を確認しながら実習を行った。指導においては、アセスメントの視点を重要視し個別指導に時間をかけた。学生カンファレンスの場を通じ、看護実践について助言を行うとともに学びの共有を図った。実習終了後は個別面接を行い、自己の達成度と学習課題の明確化を図った。</p>
<p>授業科目名【 看護総合実習：成人慢性期・終末期 】</p> <p>学生が課題とする自身のテーマに沿って実習計画を立案し、調整する等、看護職への将来展望を視野に入れ、学生の主体性と看護の洞察が深まることを意図した科目である。臨地に臨むことにより人の人生に触れ、直接指導を受けながら深く看護を学ぶ体験と自己成長を期待している。コロナ禍のため実習内容の変更を余儀なくされたが、受け入れ施設の協力により臨地実習の機会は確保できた。動機づけがされ緩和ケア病棟で学生がテーマとする「安楽」「苦痛」「意思決定」「看護」など、キーワードを意識した看護実践がスタッフと共に出来た。</p>
<p>授業科目名【 看護総合演習 】</p> <p>看護総合実習前後の演習として位置づけられている科目である。学生が関心あるテーマや自己の課題について文献検索に時間をかけ、主体的に取り組めるよう個別に関わった。実習前は課題に向き合い、実践すべきことについて計画する段階、実習後は実際の現象を概念化し、学生のテーマとした論文作成が出来る段階である。それぞれの段階とプロセスを共有する中で看護観や死生観が深まるよう助言した。成果発表をはじめグループメンバーとの学びの共有の機会を持つことで、新たな視点や看護の多様性について学修できた。</p>
<p>授業科目名【 看護学特論 】</p> <p>4年生後期の選択科目である。授業は各看護領域の教員によるオムニバス形式で行った。履修生が9名と少ないものの、専門職としての看護に対するニーズを解説し、現在の課題と看護政策、これからの看護の展望について投げかけ、考察を行った。看護を取り巻く社会環境が大きく変化する中で、看護の社会的意義や責務についても考える機会とした。</p>
<p>授業科目名【 保健福祉学入門 】</p> <p>履修学生は学部3学科(看護・福祉・栄養)の1年生である。社会の期待に応えるための保健・医療・福祉の専門性と多職種連携の意義を理解し、課題に対する認識を深め、学部入門編として自己の専門性との関連を学修できるよう構成されている。合同講義を通じ、専門性を深め、他領域を知り、理解することにより、より広く現象を捉えることを意図している。看護の社会的責務を伝え多職種との協働の必要性、および実践者として課題の明確化を図った。</p>
<p>授業科目名【 看護研究演習 】</p> <p>既習の知識・技術・理論および臨地実習の経験をもとに自ら看護に関する研究テーマを設定する。また文献検討をはじめ一連の研究活動の基本を学ぶ選択科目である。研究プロセスを踏み、計画書の重要性など、系統的な学修や論文としてまとめていく研究過程を重要視している。本年度、履修選択者は3名、単位取得者は1名であった。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本看護協会		1975年～ 現在
日本家族看護学会		1997年～ 現在

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) 高橋甲枝, 坂本未穂, 財津倫子, 大嶋満須美: ストーマ装具を装着した看護学生の生活体験からの気づき	共著	2023.3	西南女学院大学紀要. 27 (in press)	本研究の目的は、演習による模擬ストーマとストーマ装具を装着した看護学生の日常生活体験からの気づきを明らかにすることである。看護学生3年生105名を対象に装具装着を1日間体験後、提出された課題レポートの記述内容について質的帰納的分析を行った。 学生が患者疑似体験からストーマ造設患者の困難を知ること、患者に共感し、患者理解の深まりとともに必要な看護を考える上で有用な体験であったと考える。
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等
一般財団法人 佐波共済会	評議員	2017年5月～ 現在
福岡県看護協会	地区支部 施設会員代表者	2018年4月～ 現在
日本私立看護系大学協議会	施設代表者	2018年4月～ 現在
日本看護系大学協議会	施設代表者	2018年4月～ 現在

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

<ul style="list-style-type: none"> ・看護学科 学科長 (2018年4月～ 現在) 運営会議、入学試験会議、点検評価改善会議、教授会、学生総合支援室会議の構成員 学科会議議長 学科運営・人事にかかわる事項 文科省「ウィズコロナ時代の新たな医療人材育成事業」応募し選定された。補助金獲得により看護実習室の器材の整備を行った。 ・看護キャリア支援センター長 (2018年4月～ 現在) 看護キャリアセンター運営にかかわる事項 認定看護管理者教育課程 講師 ファーストレベル講師 (2022年7月2日) 認定教育課程検討委員長 (2018年4月～現在) 認定教育課程運営委員長 (2018年4月～現在) ・高大連携 講義 (2022年11月8日)
